

平成 18 年度事業報告

自 平成 18 年 4 月 1 日～至 平成 19 年 3 月 31 日

会長・理事 伊 澤 達 夫

次期会長・理事	富永英義	理事	森川博之	理事	井上友二
副会長・理事	青山友紀	理事	土井美和子	理事	保立和夫
副会長・理事	赤岩芳彦	理事	得井慶昌	理事	木戸出正継
副会長・理事	安田浩	理事	桑原秀夫	理事	大石進一
副会長・理事	雨宮真人	理事	喜多泰代	理事	吉田進
理事	中嶋正之	理事	篠田庄司	理事	安藤真
理事	萩本和男	理事	古井貞熙	理事	末永康仁
理事	並木淳治	理事	羽鳥光俊	監事	今井和雄
理事	江村克己	理事	坂庭好一	監事	後藤敏
理事	篠原弘道				

事業概況

平成 18 年度は昨年度に引き続き、本部とソサイエティが協力してソサイエティ独立採算化に向けた取組みを行った。

本部の活動としては、教育活動協議会を発足させるとともに、会員サービスの向上に継続して取り組んだ。ソサイエティでは論文誌のオンライン版の機関誌化など、活動を強化した。以下に項目別に実施の概要を記す。

(1) 会員サービスの向上としては

- オンラインジャーナルは、従来機関誌として紙ベースの論文誌を 1 誌配布していたが、18 年 4 月から所属ソサイエティの和・英オンラインジャーナルを配信に切り替え、紙の論文誌はオプションとした。図書館等についてはサイトライセンス化の検討を進め、システムの見直しを行い 18 年 10 月から無料で配信試行を開始し、本実施に向けて準備を推進させた。
- ・男女共同参画委員会は、昨年に続いて 19 年 3 月の総合大会会場に託児施設を開設して、女性会員が積極的に学会活動に参加できるように利便を図り、定着化を進めた。
- ・単行本として B5 判を含む新刊 2 点を発行した。
- 次期総合版ハンドブックについて準備会で全電子化しデータベース化したハンドブック（知識ベース）を構築するための検討を行い、第 8 次ハンドブック／知識ベース委員会構成と規程を定めた。
- 会員の定着及び会費収入の安定化を図るため 19 年度から会費を前納制とすることとし、あわせて自動引落しの促進策として割引制度を導入することとした。
- ・選奨委員会において、選奨に関する取組みを充実させた。
- ・学生ランチへの参加校数の増大を中心に学生会の活動を推進した。
- ・会誌の改善を更に進め、記事内容の見直しを推進し、より身近な機関誌とした。
- ・海外セクション代表者制度の定着化を進めた。
- ・先端オープン講座、各種専門講習会を開催した。
- ・大学の教科書「電子情報通信レクチャーシリーズ」のシリーズの充実を促進した。

(2) 教育面での活動としては

- 本会の教育活動の充実を図るために、教育活動関係の 4 委員会(生涯教育委員会、アクレディテーション委員会(APC)、CPD 委員会、小・中・高生科学教室委員会)を束ねる「教育活動協議会」を組織し活動を推進した。
- 電気学会、情報処理学会と協力した「電気電子・情報系 CPD 協議会」において新しい会員サービス実現に向けて、18 年 11 月から CPD 会員システムの試行運用を開始し、広く CPD モニター会員の参加者を募集し、運用を開始した。
- 「小中高生科学教室委員会」の中で青少年の科学離れを阻止するための「子供の科学教室」活動を継続した。委員会は支部との連携を更に発展させ、地域に根ざした活動として展開できる体制とした。また、従来と同様に 18 年度も会員の寄付を募り活動の充実を図った。
- ・「認定企画実施委員会」を「アクレディテーション委員会(APC)」と改称し、大学の教育プログラムの審査・認定に関しては、平成 18 年度も電気学会、情報処理学会との連携を密にしながら、審査活動を行った。また、本学会が主催する JABEE 自主研修会を年 2 回開催した。

(3) ソサイエティに関連する活動としては

- 通信ソサイエティでは、平成 18 年度から独立採算化の本格実施に入った。エレクトロニクスソサイエティにおいても 18 年度に試行を行い、19 年度本格実施へ向け準備を進めた。基礎・境界ソサイエティ及び情報・システムソサイエティは 19 年度試行に向けて規程・体制等を整備した。独立採算化に向けた情報の共有化を企画室リソースマネジメント WG で実施した。
- 各研究会が共通に利用できる電子投稿システムの改修を行い、19 年度に全ソサイエティでの本実施に向けて体制を整備した。
- 国際委員会において、国際会議事務処理マニュアルを作成した。
- ・平成 16 年 4 月に創刊したペーパーレスの電子ジャーナル(ELEX: IEICE Electronics Express)の更なる推進を図った。
- ・「FIT (Forum on Information Technology) ; 情報科学

技術フォーラム」を情報・システムサイエティ（平成18年度担当）、ヒューマンコミュニケーショングループ、情報処理学会の合同で開催した。

(4) その他の事項としては

- 「電気・情報関連学会連絡協議会」において直面している長期的な共通問題に対して協議会を2回開催した。更に、日本学術会議と電気・情報関連5学会との連絡会議を平成19年度から実施する方向で取り組む方針を定め、各学会の理事会承認を経て具体化することとした。
- ・平成15年度科学研究費補助金（5年間）によって関連学会と協力して取り組んできた卓越技術データベース作成を本年度も継続して推進した。
- ・論文誌の一層の質の向上を図るため、査読委員並びに編集委員を対象とした論文査読に関する説明会を総合大会の会場で開催した。

以下に各事業の実施状況を報告する。（○は18年度に新規に行ったもの）
（氏名につきましては、敬称を略させていただきます）

I. 本部事業

1. 出版に関する事項

1.1 会誌の発行状況（定款 第6条イ）

全会員に共通の場として重要なメディアである会誌は、平成18年4月から19年3月まで12冊、合計412,000部（月平均34,333部）を発行配布した。

平成18年度の会誌記事の内容・件数及びページ数は次のとおりである。

種類	件数	ページ数	種類	件数	ページ数
講演	1	6	寄書	7	20
4月小特集（インターネットとアルゴリズム）	8	33	回想	1	2
5月特集（センサネットワーク）	15	82	学生/教養のページ	13	39
6月小特集（テラヘルツテクノロジー—未知の電磁波がもたらすブレークスルー—）	7	39	オピニオン	1	3
7月小特集（エレクトロニクス、情報通信、情報・システム系学生へのメッセージ）	27	59	ニュース解説	25	39
8月小特集（電子情報通信むかしばなし）	9	49	総合報告	1	17
9月小特集（非常災害に向けた高度情報通信ネットワークの構成と制御）	8	34	ソサイエティのページ	3	5
10月特別小特集（最先端映像技術—東海の挑戦—）	6	24	学生会報告	2	13
11月特集（大容量化が進むストレージ技術）	13	82	支部だより	3	0
12月小特集（信頼性のフロンティア）	5	23	予定目次	12	0
12月小特集（次世代ネットワーク技術の標準化動向）	6	29	学会ニュース	1	0
1月特別小特集（研究者・技術者の倫理観・人生観）	16	36	慶賀	1	1
			追悼抄	3	3
			国際会議	22	4
			図書紹介	20	10
			国内文献目次		6
			図書寄贈一覧		18
			本会だより		12
			編集室		8
			役員等口絵		77
			総会・選奨		2
			フェロー口絵		11
			会誌総目次		6
			学会編集室		
			計	1,086	

2月小特集（情報通信技術と著作権・人格権（肖像権））	5	21	巻頭言	12	12
3月小特集（ITとエネルギー）	10	57	目次	12	36
			会告		628
			論文誌目次		34
解説座	32	193			
	4	23			
			合計		1,796

*その他：広告（カラー、前付、後付等）262ページ

1.2 広告賞について（定款 第6条チ）

平成18年広告賞として下記の2点を選定した。

【カラー広告部門】日本電気株式会社

「顔をおぼえるのがじつは、いちばん安全です。」（6月号）

【一色刷り広告部門】沖電気工業株式会社

「世界常時コミュニケーションへ。」（10月号）

1.3 ハンドブックについて（定款 第6条ト）

次期総合版ハンドブックについて準備会を設置し、全電子化データベース化したハンドブック（知識ベース）を構築するための検討を行った。平成18年12月理事会において、第8次ハンドブック/知識ベース委員会構成と規程についてそれぞれ承認を得た。

1.4 単行本（定款 第6条ト）

平成18年度は新刊2点2,200部、重版8点2,600部を発行した。

なお、平成16年度から刊行を開始したB5判単行本について、18年度は第3弾として「情報技術の人間学——情報倫理へのアプローチ——」を刊行した。

新刊書は次のとおりである。

新刊書名	判型	発行年月日	頁数	部数
情報技術の人間学——情報倫理へのアプローチ——	B5	H19.2.20	202	1,200
マイクロ波誘電体フィルタ	A5	H19.3.30	296	1,000

1.5 教科書「電子情報通信学会大学シリーズ」の発行（全62巻）（定款 第6条ト）（コロナ社委託出版）

昭和55年8月以降既刊書目52点。平成18年度は新刊2点、重版16点を発行した。

新刊書は次のとおりである。

新刊書名	発行年月日	頁数	部数
光・電磁物性	H18.10.30	232	1,000
新版 画像工学	H18.12.25	254	1,000

1.6 教科書「電子情報通信レクチャーシリーズ」（全65巻）（定款 第6条ト）（コロナ社委託出版）

大学院及び学部の学生を対象とし、併せて一般勉学者の参考に供するための新シリーズの教科書として平成18年度は新刊2点、重版4点を発行した。

新刊書は次のとおりである。

新刊書名	発行年月日	頁数	部数
VLSI工学—製造プロセス編—	H18.8.25	204	1,000
VLSI工学—基礎・設計編—	H18.10.10	182	1,000

（平成14年3月第1回配本以降通算16点）

2. 会議に関する事項 (定款 第6章)

2.1 第80回通常総会

平成18年5月27日(土)午後2時から機械振興会館において第80回通常総会を開催した。社員総数170名に対し、出席社員数106名(委任状を含む)で、定款第45条に定める社員総数の過半数の出席に達した。よって、齊藤会長を議長として下記議案を付議して、いずれも原案通り可決承認した。

平成17年度事業報告について
平成17年度収支決算報告について
規則の改正について

平成18年度事業計画(案)について
平成18年度収支予算(案)について

2.2 理事会、評議員会

年度内に8回の理事会を開催し、うち3回を評議員会と合同で開催した。

2.3 支部長会議

平成19年3月21日(水)に開催し、各支部の活動報告、本部一支部間の意見交換を行った。

2.4 海外セクション代表者会議

国際委員会において海外セクション代表者制度による海外セクション代表者9名が、各セクションにて講演会等を企画・実施することに協力するとともに、本学会活動の周知・宣伝に努めた。また、第5回海外セクション代表者会議を総合大会期間中(名城大学)の3月22日に開催し、台北、北京、シンガポール、バンコク、韓国から代表者が出席し意見交換を行った。

各セクションにおいての講演会等の実施件数は次のとおりである。

セクション	件数	セクション	件数
台北	1	北京	2
シンガポール	2	バンコク	1
インドネシア	0	香港	0
韓国 (Information)	1	韓国 (Communication)	1
韓国 (Electronics)	1		

3. 規格調査会に関する事項 (定款 第6条ニ)

委員会議を4回、専門委員会及び小委員会を75回開催した。取り扱ったIEC文書は663件で、そのうち184件に対して日本の意見を回答した。

委員会名	委員長名	委員数		開催数	
規格調査委員会	羽鳥 光俊	16		4	
専門委員会名	専門委員長名	専門(委)	小(委)	専門(委)	小(委)
1 電子部品のデータ要素	堀内 一	0	26	0	5
2 通信用伝送線及びマイクロ波受動部品	小林 禧夫	11	42	4	21
3 周波数制御・選択デバイス	関根 好文	24	22	4	6
4 光ファイバ	羽鳥 光俊	20	65	4	17
5 デザインオートメーション	神戸 尚志	17	35	4	4
6 無線通信用送信装置	小川 博世	16	0	1	0
7 電子通信用語	吉村 久乗	24	0	0	0
8 電子通信記号	—	14	0	0	0
9 複雑システムの安全規格委員会	鈴木 喜久	10	0	5	0
合計		152	190	26	53
					79

4. 選奨に関する事項

本年度の各選奨は所定の手続きによって選考が進められ、次のとおり各受賞者を決定した。

4.1 功績賞 (第68回) (定款 第6条ホ)

伊藤 清 男 (日立)
篠田 庄 司 (中大)
島田 禎 晉 (矢崎総業)
鈴木 滋 彦 (NTT ソフトウェア)
村谷 拓 郎 (元 KDDI 研)

以上5名

4.2 業績賞 (第44回) (定款 第6条ホ、へ)

選奨規程第9条イ項によるもの (業績名五十音順)

業 績	貢 献 者 (所 属)
ナノフォトニクス創造とその先導研究	大津 元一 (東大)
フォトニクス技術による未利用電磁波帯の開拓と無線通信への応用に関する先駆的研究	永妻 忠夫 (NTT) 枚田 明彦 (NTT) 小杉 敏彦 (NTT)
ブロック暗号に基づく認証技術の理論的研究と国際標準化への貢献	岩田 哲 (名大) 黒澤 馨 (茨城大)

以上3件

選奨規程第9条ロ項によるもの (業績名五十音順)

業 績	貢 献 者 (所 属)
InGaAlAs 材料系を用いた毎秒10ギガビット伝送用高温動作通信用光源の実用化	中原 宏治 (日立) 土屋 朋信 (日立) 青木 雅博 (日立)
オーディオ符号化基本技術の開発と MPEG 国際標準化への貢献	杉山 昭彦 (NEC) 守谷 健弘 (NTT) 赤桐 健三 (早大)
モバイルコンテンツサービスのための MPEG 応用技術の開発と実用化	中島 康之 (KDDI 研) 滝嶋 康弘 (KDDI 研)

以上3件

4.3 論文賞 (第63回) (定款 第6条ホ、へ)

(分冊別掲載年順)

A	論文名	最大デッドロックフリー可制御部分述語の計算とその警報器設計への応用
	著者名	梁瀬裕行・潮 俊光 (阪大), 足立正和 (豊田中研), 高井重昌 (京都工繊大)
	掲載年月	平成18年5月 (A)
A	論文名	Secret Key Agreement from Correlated Source Outputs Using Low Density Parity Check Matrices
	著者名	村松 純 (NTT)
	掲載年月	平成18年7月 (EA)
A	論文名	Relationship among Complexities of Individual Sequences over Countable Alphabet
	著者名	葛岡成晃・植松友彦 (東工大)
	掲載年月	平成18年7月 (EA)
B	論文名	電波伝搬推定のための遺伝的アルゴリズムを用いたレイトレーシング処理の高速化法
	著者名	今井哲朗 (NTT ドコモ)
	掲載年月	平成18年4月 (B)
B	論文名	A Pre-FFT OFDM Adaptive Array Antenna with Eigenvector Combining
	著者名	原 晋介・TRAN Quoc Tuan・賈 雲健 (阪大)・Montree Budsabathon (Fahrinet), 原 嘉孝 (三菱電機)
	掲載年月	平成18年8月 (EB)
B	論文名	MIMO-OFDM 固有ビーム空間分割多重方式におけるチャネル情報フィードバック量の削減手法
	著者名	大渡裕介・小川恭孝・西村寿彦・大鐘武雄 (北大)
	掲載年月	平成18年9月 (B)
C	論文名	金属ナノ構造を用いた面発光レーザーの偏光・横モード制御
	著者名	橋爪滋郎・小山二三夫 (東工大)
	掲載年月	平成18年1月 (C)

C	論文名	A 385-500 GHz Low Noise Superconductor-Insulator- Superconductor Mixer for ALMA Band 8
	著者名	単文 菟 (Purple Mountain Observatory), 浅山信一郎・神蔵護・野口 卓 (国立天文台), 史生才 (Purple Mountain Observatory), 関本裕太郎 (国立天文台)
	掲載年月	平成 18 年 2 月 (EC)
C	論文名	Fingerprint Image Enhancement and Rotation Schemes for a Single-Chip Fingerprint Sensor and Identifier
	著者名	重松智志・藤井孝治・森村浩季・羽田野孝裕・中西 衛・池田奈美子・島村俊重・町田克之・岡崎幸夫・久木 億 (NTT)
	掲載年月	平成 18 年 4 月 (EC)
D	論文名	XML 文書検索システムにおける文書内容の統計量を利用した検索対象部分文書の決定
	著者名	波多野賢治 (同志社大), 絹谷弘子 (お茶の水女子大), 吉川正俊 (京大), 植村俊亮 (奈良先端大)
	掲載年月	平成 18 年 3 月 (D)
D	論文名	$A \left[2 - c \frac{\log N}{N} \right]$ -Approximation Algorithm for the Stable Marriage Problem
	著者名	岩間一雄・宮崎修一・岡本和也 (京大)
	掲載年月	平成 18 年 8 月 (ED)
D	論文名	特徴点の局所的配置に基づくデジタルカメラを用いた高速文書画像検索
	著者名	中居友弘・黄瀬浩一・岩村雅一 (阪府大)
	掲載年月	平成 18 年 9 月 (D)

(A, B, C, Dは分冊名)

以上 12 冊

4.4 猪瀬賞 (第 13 回) (定款 第 6 条ホ, ヘ)

論文名	$A \left[2 - c \frac{\log N}{N} \right]$ -Approximation Algorithm for the Stable Marriage Problem
著者名	岩間一雄・宮崎修一・岡本和也 (京大)
掲載年月	平成 18 年 8 月 (ED)

以上 1 件

4.5 学術奨励賞 (第 69 回) (定款 第 6 条ホ, ヘ)

[A. 基礎・境界]: 10 名

(五十音順)

受賞者	所属	題名	講演番号	大会別
板倉 豊和	東芝	動画像分析による生産現場業務改善支援	A-12-2	総合
崔 明秀	東芝	リング型 VCO の低位相雑音化に関する一検討	A-1-21	総合
嶋田 修	NEC	制約付適応グリッド生成を用いた MPEG-4 HE-AAC エンコーダ	A-4-23	ソサイエティ
滝沢 賢一	NICT	誤り訂正符号化を用いた測距方法に関する一検討	A-5-9	総合
橋爪 裕子	北九州市大	製造ばらつきに対応したクロックデスキュー手法とその良品化率に関する考察	AS-1-6	ソサイエティ
福興 賢	東北大	1 ビットフラグを用いた高速 RFID 識別方式: 1 ビットフラグの耐雑音特性の評価	AS-3-11	ソサイエティ
松下 春奈	徳島大	触角を持つ SOM の自己組織化能力に関する研究	A-2-16	総合
森弘 佑輔	阪大	自律分散型 AGV の搬送計画問題における計算時間短縮法の提案	A-12-3	総合
米村 智子	東芝	代数的トラス上の暗号系一安全性の評価	A-7-11	ソサイエティ
渡邊 高志	日立	論理シミュレータを用いた電力解析に対する脆弱性の原因信号線探索法	AS-3-6	ソサイエティ

[B. 通信]: 35 名

受賞者	所属	題名	講演番号	大会別
Anass Benjebbour	NTT ドコモ	Interference Removal of a Wideband Signal from a Narrowband Signal using Cyclic Wiener Filtering	B-5-108	総合
Ashiq Khan	NTT ドコモ	A Multipath Construction Method on OLSR	B-21-19	総合
LE The Quyen	早大	Network Anomaly Detection and Identification	BS-15-11	ソサイエティ
宇都宮依子	東芝	IEEE802.11n 向け 20/40MHz 端末共存方式における 20/40MHz フェーズ切替え失敗時の動作解析と特性評価	B-5-178	総合
		IEEE802.11n 向け 40MHz 通信時のキャリアセンス方法に関する検討	B-5-136	ソサイエティ
大島 正資	三菱電機	エンハンスド FFT-MUSIC 法による電波到来時間差推定実験結果	B-2-15	ソサイエティ
大関 武雄	KDDI 研	IEEE802.16 における QoS 制御のためのスロット割当て方法に関する一検討	B-5-141	総合
		IEEE802.16 における QoS 無線パケットスケジューリング手法に関する一改良	B-5-140	ソサイエティ
大原 拓也	NTT	GMPLS/OIF-OUNI 協調動作によるマルチ信頼性クラス光バスプロビジョニングのデモンストレーション	B-12-6	総合
大藤 義顕	NTT ドコモ	上りリンクシングルキャリア FDMA における CQI 測定用パイロットチャネルの送信帯域幅のグループ化を用いる周波数領域スケジューリング法	B-5-35	ソサイエティ
岡野 由樹	NTT ドコモ	2GHz 帯ノート型 PC 用折り返しダイポールアンテナのマルチアンテナ特性折り曲げ構造を有するマルチバンド逆 L アンテナの PDA 端末配置時マルチアンテナ特性	B-1-237	総合
			B-1-201	ソサイエティ
小川 将克	NTT	公平な無線アクセスのための誤り補償に関する検討	B-5-165	総合
		ショートパケットのためのレートアダプテーションに関する一検討	B-5-133	ソサイエティ
落合 麻里	三菱電機	60GHz 帯ミリ波ブロードバンド通信システム (2) 一無線方式と回線設計の検討	B-5-97	ソサイエティ
小原 一歩	KDDI 研	GE-PON における下り TCP スループットの公平性確保手法の検討	B-8-4	総合
金子 尚史	KDDI 研	IP 放送サービスのためのマルチキャストフィルタリング手法に関する一考察	B-5-193	総合
川崎 大輔	NEC	VoWLAN 品質管理システムの試作評価	B-6-30	総合
北原 武	KDDI 研	ニューラルネットワークを用いたトラフィック変動の上限値予測手法	B-7-9	総合
		小容量バッテリー搭載端末のためのトラフィック制御に関する一検討	B-7-49	ソサイエティ
黒田 晋嗣	三菱電機	海面の粗さを考慮したダクト現象下におけるレーダ追尾誤差に関する考察	B-1-5	総合
小西 良明	三菱電機	パラレルプリフィックスネットワークプリコーダを用いた光 DQPSK 実験光通信分散補償プリコーダにおけるメモリ構成方法の検討	B-10-55	総合
			B-10-41	ソサイエティ
阪本 卓也	京大	歩行運動を利用した UWB パルスレーダによる人体形状の高速イメージング	B-1-19	ソサイエティ
沢田 浩和	NICT	CLEAN 法を用いた 60GHz 帯屋内伝播の分析	B-1-13	総合
大黒 将弘	KDDI 研	帯域制限時の 40Gbit/s Duobinary 変調方式の特性評価	B-10-63	総合
		50GHz チャネル間隔の陸上長距離伝送システムに適した 40Gbit/s 光変調方式の検討	B-10-45	ソサイエティ

田岡 秀和	NTT ドコモ	下りリンク VSF-Spread OFDM 無線 アクセスにおける MIMO チャネルを 用いるリアルタイム 1Gbps パケット 信号伝送の屋外実験結果	B-5-46	総合
寺田 真介	東大	アドホックネットワークにおける多 対多マルチキャストルーチング	B-21-15	総合
		アドホックネットワークにおける多 対多マルチキャスト分散ルーチング	B-21-19	ソサイ エティ
登坂 俊英	NICT	プリンタからの印字情報再現に関す る基礎実験	B-4-15	総合
		2焦点型楕円キャビティを用いた シールド効果測定法	B-4-9	ソサイ エティ
戸毛 邦弘	NTT	光ケーブル構造が偏波モード分散特 性を与える影響	B-13-5	総合
		低 PMD スロット型光ケーブルの設計 に関する検討	B-13-31	ソサイ エティ
長岡 智明	NICT	妊娠女性の高分解能数値モデル開発 と SAR 解析	B-4-36	ソサイ エティ
永田 健悟	NTT	CSMA/CA 無線 LAN システムの公平 性を改善する方式における後方互換 性の検討	B-5-163	総合
		無線マルチホップネットワークにお ける複数の送信パッファの利用によ る遅延特性の改善	B-5-80	ソサイ エティ
西尾 真貴	東芝	RF-MEMS を用いた携帯端末向け地 デジ用周波数可変アンテナの検討	B-1-133	総合
		地上デジタル放送用車載アンテナの 検討	B-1-123	ソサイ エティ
西本 研悟	三菱電機	可変容量装荷スリープアンテナ構成 法の実験的検証	B-1-157	総合
		センサノード用偏波ダイバーシチア ンテナ	B-1-75	ソサイ エティ
西本 浩	北大	屋内伝搬環境における MIMO-OFDM 疑似固有ビーム伝送特性	B-1-217	ソサイ エティ
長谷川 淳	ATR	無線マルチホップスイッチングの提 案と実証	BS-12-4	ソサイ エティ
前田和佳子	NEC	量子暗号鍵配付システムにおける自 動初期設定技術	B-10-43	総合
		光スイッチによる 1 対多量子暗号鍵 配付ネットワーク	B-10-22	ソサイ エティ
矢野 一人	京大	複数ビーム受信 CDMA 干渉キャンセ ラにおけるレプリカ減算に関する一 検討	B-5-78	総合
		OFDM パケット伝送のための信号の 周期構造を利用したアダプティブア レーの繰り返しウェイト生成法	B-5-13	ソサイ エティ
山岸 和久	NTT	映像コミュニケーションサービスに 対する映像品質オピニオンモデルの 有効性検証	B-11-20	ソサイ エティ
山崎 康広	NEC	サンプリング計測での TCP パケット ロス区間推定技術	B-14-2	ソサイ エティ
吉見 英朗	NEC	中継サーバレス型 NAT 越え方式の提 案	B-7-137	総合

[C. エレクトロニクス]: 14 名

受賞者	所属	題名	講演番号	大会別
荒巻 洋二	三菱電機	二分形非放射型誘電体線路を用い た 30GHz 帯 T 分岐回路	C-2-93	総合
		E 面 R を有する誘導性アイリス結 合形導波管フィルタの解析設計	C-2-66	ソサイ エティ
大野 貴信	青学大	タップ結合型共振器 BPF を用いたク ワッドプレクサに関する基礎検討	C-2-73	ソサイ エティ
柏木 謙	東大	カーボンナノチューブ蒸着平面導波 路を用いた全光型スイッチング	C-3-12	総合
加藤 貴之	東芝	W-CDMA 端末用ドハティアンプモ ジュールの高利得化	C-2-8	ソサイ エティ
坂巻 陽平	NTT	波面整合法による導波路交差の狭角 度化	C-3-45	総合
		波面整合法による AWG のモード変 換損失低減	C-3-4	ソサイ エティ

佐藤 優	富士通	94GHz 帯パッシブイメージセンサの 開発	C-2-96	ソサイ エティ
島倉 泰久	三菱電機	40GbpsWDM 対応型可変分散補償器	C-3-47	ソサイ エティ
谷井 宏成	電通大	分布定数タップ結合型容量装荷共振 器を用いた UWB 用 BPF に関する検 討	C-2-70	ソサイ エティ
西田 和広	三菱電機	先端開放スタブ装荷サブハーモニッ ク注入同期発振器	C-2-6	総合
		MEMS 技術を用いたキャビティ構造 Si 基板へフリップチップ実装した W 帯ミキサ	C-2-31	ソサイ エティ
服部 雅晴	KDDI 研	空間光伝送システムにおける光軸検 出機構の提案	C-14-9	ソサイ エティ
濱田 康宏	NEC	非対称 CPS/CPW バランを用いた 60 GHz 帯小型 IQ 変調器 MMIC	C-2-23	総合
水谷 健二	NEC	SOA 変調器集積外部共振器型波長可 変レーザの 2.5Gbps-360km フルバン ド伝送特性	C-4-34	ソサイ エティ
湯浅 健	三菱電機	タンデムハイブリッドを用いた C 帯 方形同軸線路型電力合成器	C-2-44	総合
		はんだ接合気密封止パッケージ用ミ リ波帯シリコン基板貫通伝送線路	C-2-38	ソサイ エティ
渡辺 啓	NTT	ダブルコア・スロットサイズ変換器 を用いた超低損失小型 AWG	C-3-89	総合
		テーパー狭リッジ構造を用いた超低 消費電力 PLC 光スイッチ	C-3-51	ソサイ エティ

[D. 情報・システム]: 8 名

受賞者	所属	題名	講演番号	大会別
青木 秀一	NHK	ネットワーク品質低下時の放送番組 対処システム	DS-3-7	総合
大脇 一泰	東芝	陰面領域を考慮したフレーム補間技 術(FrameBooster [®])	D-11-96	総合
河合 吉彦	NHK	EPG テキストを利用した番組スポッ ト候補映像の抽出手法	D-12-35	総合
小林 和則	NTT	方向別 AGC 機能の IP 電話会議装置 への実装	D-14-12	総合
田中 秀典	ATR	複数視点監視カメラを用いた動的な 見え方学習法	D-12-102	総合
古畑 彰夫	東芝 ソリューション	SVM を用いた類似文字認識の基礎的 検討	D-12-81	総合
明堂 絵美	KDDI 研	誤差拡散割符の最適パラメータ設定 に関する一検討	D-11-31	総合
山崎 俊彦	東大	Shape Distribution 法の改良による 3D ビデオの検索	D-12-45	総合

5. 関連学術団体との連携に関する事項(定款 第 6 条チ)

平成 18 年度は、下記のほかに 224 件の協賛・後援等を行っ
た。

- ・シンポジウム「情報セキュリティと人工知能(AI)の融合」
(平成 18 年 11 月 1 日 情報セキュリティ大学院大学主催)
- ・情報社会のデザインシンポジウム 2006
(平成 18 年 11 月 30 日, 12 月 1 日 情報社会のデザイン
シンポジウム実行委員会主催)

6. 先端オープン講座に関する事項(定款 第 6 条ロ)

平成 18 年度は、本会教育活動全般を管轄する「教育活動
協議会」の設置に伴い、生涯教育委員会は、同協議会下部委
員会として活動することが、理事会において承認された。

講座に関しては、前年度に引き続き厳しい業務環境が続い

ている。更に平成18年度秋季講座からは、機械振興会館耐震工事のため、近隣の会場を使用して開講することとなった。受講者へのサービス維持に配慮するとともに、以下の方策を実施し受講者確保に努めた。①受講者の負担軽減と選択幅を広げ、タイムリーな受講を促進するため、5回コースを主体とするコース編成を実施。②CPD（技術者の継続的教育・能力開発）との連携に向け関連学協会と協賛した周知・宣伝。③新設コースによる新規受講者の開拓。④継続的受講を促進するための2回目以降受講料の割引。⑤非会員受講者拡大に向けたソフトウェア講座専用ホームページの開設及び継続的な新聞雑誌への講座案内記事掲載。また、支出面では、受講人数に対応した会場の選択、印刷単価の見直し、少人数コースの開催中止等を行い経費節減に努めた。春季講座（5月13日～7月15日）と秋季講座（10月7日～12月9日）を各々週土曜日・10週間（30時間）にわたり開講し、開講講座と受講状況は次のとおりであった。

〔春季講座〕

コース別	受講者数 (): 内団体受講数
A: 情報通信ネットワーク技術	21名(3)
Aa: インターネット及びIPネットワーク技術	13名(3)
B: システムLSI設計技術	10名(2)
C2: ユビキタスコンピューティングの先端応用技術	7名(1)
D1: 情報通信プロトコル基礎技術	10名(2)
D2: 情報通信プロトコル応用技術	15名(2)
E: オブジェクト指向とJava技術	13名
F: 情報セキュリティ技術	12名(2)
計	101名

(ただし、Aa、C2・D1、D2・E・Fコースは全5回の講座)

〔秋季講座〕

コース別	受講者数 (): 内団体受講数
A: 情報通信ネットワーク技術	8名(1)
Aa: インターネット及びIPネットワーク技術	9名(3)
D2: 情報通信プロトコル応用技術	13名(2)
計	30名

(注) 秋季は、機械振興会館工事、少人数受講コースの開講中止により3コースのみ開講

7. 専門講習会に関する事項（定款 第6条口）

支部主催、本部支援の専門講習会を次のとおり開催した。

支部名	題目	開催年月日	参加者数	場所
東北	ロボットとセンサ技術	H18.12.12	192	日本大学(郡山)
信越	組込みシステムに関するセミナー	H19.3.19, 20	12	長岡技術科学大学
東海	最先端ディスプレイ技術	H19.2.2	37	ローズコートホテル
関西	分析・可視化による情報の価値化—Webからの情報抽出・マインニング、情報セキュリティ法の現状	H18.10.6	52	中央電気倶楽部
四国	ファイルサーバ・ウェブサーバの構築と運用	H18.10.7, 10.14	13	詫間電波工業高等専門学校
九州	コンピュータグラフィクスを支える基幹技術	H18.12.6	55	早稲田大学(九州)

計6回

8. 普及啓発活動に関する事項（定款 第6条口、へ）

小・中・高校生を対象とした科学教室

子供の科学離れを防ぐための活動の一環としてこれまで行ってきたが、18年度も小・中・高校生の科学教室を推進した。

18年度は本会教育活動全般を管轄する「教育活動協議会」が設置され、その配下に「小中高生科学教室委員会」を設置し、会員及び関連企業の協力の下に、各支部と連携して次のとおり活動範囲等を拡大しながら実施した。

また、本活動を支援している「子供の科学教室基金」を長期的、健全に維持するため、14年度から開始した募金活動を継続し、18年度は880名（個人会員と1団体）から約430万円の募金協力を得て基金に繰り入れた。

題目・講師(敬称略)	開催年月	参加数
科学実験教室：科学技術館会場 テーマ：アンテナの不思議 実験：アンテナのしくみはどうなっているか確かめよう！ 講師：羽石操・木村雄一・斉藤作義（埼玉大） 共催支部：東京	H18.4.8	21名
科学実験教室：科学技術館会場 テーマ：音の正体 講師：大賀寿郎（芝浦工大） 共催支部：東京	H18.6.18	19名
見学会：NHK放送技術研究所 講演：最先端の放送技術 (1)暗いところでもきれいに撮れる不思議なカメラ (2)不思議なバーチャルスタジオ 講師：谷岡健吉・久保田節・山内結子（NHK） 共催支部：東京	H18.6.24	73名
体験教室：科学技術館会場 テーマ：「コンピュータ・プログラミングを自作してみよう！」 講師：浅見徹（東大）、山崎克之（長岡技術科大）、野々山紫（NTT-AT） 共催支部：東京	H18.7.2	20名
見学会：NTT武蔵野研究開発センター テーマ：通信のひみつと最先端技術 講演：通信のひみつ—最新の通信はどうなっているか見てみよう！ 講師：池田博昌（東京情報大） 共催支部：東京	H18.7.26	86名
科学体験教室：大阪大学基礎工学部会場 テーマ：大阪大学基礎工学部システム科学科一日体験入学特別講義：システム工学とは 講師：西田正吾（阪大） 体験教室：8項目の実習から2つを当日選択して実習 (1)ロボットの動作生成 (2)“声”を作ってみよう (3)ゲームで学ぶオペレーションズ・リサーチ (4)フィードバックで生まれるさまざまな形 (5)画像・映像のデジタル処理 (6)事例に基づくWebページデザイン (7)物理系のシミュレーション (8)モーフィングによる顔合成	H18.8.1	70名
見学会：大学の研究室訪問（東京工業大学：古井・篠田研究室） テーマ：コンピュータと話をしてみよう！ 講師：古井貞照・篠田浩一（東工大） 共催支部：東京	H18.8.7	24名
見学会：NTTデータ霞ヶ関プレゼンテーションスペース INFORIUM 共催支部：東京	H18.8.8	16名
見学会：富士通川崎工場と富士通研究所 テーマ：自分を見分ける自分の生体情報のしくみ—生体情報を使った本人認証技術と社会での役割— 講師：塩原守人・渡辺正規・森原隆・喜多川幸子・斎藤稔・佐藤隆 共催支部：東京	H18.8.25	18名

見学会：日本テレコムネットワークサービスセンター 講師：上野浩之・寺田浩詔・笠 史郎(日本テレコム) 共催支部：東 京	H18.8.29	10名
電子工作教室：秋田県立大学会場 テーマ：IC ラジオを作り電波を知ろう!! 講師：阿部敏士・高山正和・戸花照雄(秋田県立大) 共催支部：東 北	H18.10.21	34名
科学教室：中央大学会場 テーマ：安心して生活できる社会をめざして 特別講演：ひみつの話 講師：牧野光則(中大) 体験教室：大学ってどんなところかのぞいてみよう! 共催支部：東 京	H18.11.3	44名
科学教室：高知会場 テーマ：不思議がいっぱい科学の世界 講演・体験：1. 技術の歴史 2. 通信の秘密を探るー携帯電話のしくみを勉強しようー 3. パソコンの頭の中はどうなっているの? 4. 楽しいデジタルの世界ー音と画像の信号処理のはなしー 5. コンピュータがコンピュータを作る話 6. インターネットってどうなっているの?ーホームページ作成に挑戦してみよう!ー 講師：池田博昌(東京情報大), 白川 功(兵庫県立大), 石井六哉(横浜国大), 築山修治(中大), 小山正樹(奈良先端大) 司 会：島村和典(高知工科大) 共催支部：四 国	H18.12.2	35名
見学会：大学の研究室訪問(東京大学工学部電子情報系・VDEC) テーマ：トランジスタと発光ダイオードで学ぶ波長多重光通信エレクトロニクス 講師：三田吉郎・杉山正和・山崎俊彦・久保田雅則・廣瀬健一郎・出浦桃子(東大) 共催支部：東 京	H19.2.10	51名
科学教室：日本女子大学会場 テーマ：魅力がいっぱい光の世界を体験しよう! 講演・体験：(1)光通信と光ファイバ (2)分光器を作ろう 講師：今井 元・小籠香椎子・小川賀代(日本女子大) 共催支部：東 京	H19.2.17	51名
科学教室：沖縄会場 テーマ：不思議がいっぱい科学の世界 講演・体験：1. 沖縄の子供達へ 2. 通信の秘密を探るー携帯電話のしくみを勉強しようー 3. コンピュータがコンピュータを作る話 4. 楽しいデジタルの世界ー音と画像の信号処理のはなしー 5. インターネットってどうなっているの?ーホームページ作成に挑戦してみよう!ー 講師：翁長健治(デジタル社会総合研), 池田博昌(東京情報大), 石井六哉(横浜国大), 築山修治(中大), 小山正樹(奈良先端大) 共催支部：九 州	H19.3.3	47名
科学教室：名古屋会場 テーマ：不思議がいっぱい科学の世界 講演・体験：パソコンによる音の科学入門 講師：板倉文忠・坂野秀樹(名城大) 共催支部：東 海	H19.3.21	76名
講演会：名城大学会場 テーマ：高校生に電子情報通信の面白さを語りかける講演 講演：(1)「夢のクルマ」実現への挑戦ー実現を支える電子情報通信技術についてー (2)人に優しい介護支援ロボットの研究開発 講師：梅山光広(トヨタ自動車)・羅 志偉(神戸大) 共催支部：東 海	H19.3.23	66名
体験教室：名城大学会場 テーマ：自律移動ロボットの制御プログラミング体験教室 講演・体験：自ら動くロボットを作ってみよう! 講師：小中英嗣(名城大) 共催支部：東 海	H19.3.23	31名
科学教室：大阪会場 テーマ：不思議がいっぱい科学の世界 特別講演：コンピュータを使うときの道具のはなし 体験教室：(1)コンピュータグラフィックスに挑戦してみよう! (2)画像処理を体験してみよう! 講師：北村喜文(阪大)・牧野光則(中大)・尾上孝雄(阪大) 共催支部：関 西	H19.3.31	41名

計20回 833名

9. 学生事業に関する事項(定款 第6条へ,チ)

9.1 会誌「学生会報告」欄の掲載記事

各支部学生会の活動状況等を会誌「学生会報告」欄に掲載した。

- ・平成18年7月号：平成16年度各支部学生会事業報告
- ・平成19年2月号：各支部・学生ランチ学生員の感想

9.2 学生員の入会勧誘

各支部に入会勧誘のためにPR用資料として、「ポスター」と宣伝を兼ねた「学生用入会案内」をそれぞれ配布した。各支部において学生員増強基金を利用した学生員勧誘、学生ランチ設置校募集が行われた。

また、学生員増強基金の有効利用についても検討がなされ、基金利用の上限額、利用基準について検討を行った。

9.3 学生へ情報小冊子の配布

学生への情報小冊子「学生の皆さんへ」を10,500部作成し、年2回学生員及び各支部へ配布した。その際、卒業(修了)予定の学生に対して会員資格手続きの早期連絡、正員に昇格する際の会費減額の周知を行った。更に、会費未納者への支払勧奨を1月から毎月行い、会員継続を要請した。

9.4 学生ランチについて

平成18年度は、設置校申請12校(会津大、愛媛大、香川大、慶大、千葉大、千葉工大、東工大、都立高専、徳島大、豊橋技科大、名大、早大)で活動を行った。

また、ホームページ「学生のひろば」に学生ランチ設置校の活動紹介記事及び設置申込みから報告書作成までの資料、流れを掲載し、学生ランチ設置校の拡大を図った。

支部活動として実施するため、設置校の申請を各支部を通じて受け付けることとした。また、各支部学生ランチ設置校の活動については、学生会連絡会に報告し、各支部学生が自主的に参加し、運営していける環境作りを検討する。

10. 男女共同参画に関する事項(定款 第6条チ)

平成15年7月理事会において「男女共同参画委員会(荒川薫委員長)」の設立が承認され、工学系の学会が連携している「男女共同参画学協会連絡会」に加盟し、女性研究者が快適となることの活動を開始した。

平成18年度女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～の企画に参加し、本学会は後援した。

18年3月の総合大会において託児施設を開設し、19年3月の総合大会においても託児施設を開設する。

11. 検討部会に関する事項(定款 第6条チ)

11.1 技術者教育認定制度について

「認定企画実施委員会」を「アクレディテーション委員会(APC):篠田庄司委員長」と改称し、新たに設置された「教育活動協議会」のもとに、JABEE(日本技術者教育認定機構)及び関連学会と連携をとりながら審査を実施するとともに審査員の養成(JABEE審査員養成研修会に参加、及び自主研修会を2回実施;参加者合わせて約110名)を開催した。

JABEEの最新の話題に関するシンポジウム(19年3月総合大会特別企画)を開催する。

11.2 技術者の継続的な教育・能力開発

「CPD(Continuing Professional Development)部会:持田侑宏部会長」は、本会の技術者教育への取組みをJABEE活動とともにCPD活動を車の両輪として形成するとの位置付

けから設置され、日本工学会下の PDE (Professional Development of Engineers) 協議会と連携して活動を進めている。本年度は、本会教育活動全般を管轄する「教育活動協議会」の設置に伴い、現行の CPD 部会は CPD 委員会に格上げし、同協議会下部委員会として活動することが、理事会において承認された。また前年度から電気学会、情報処理学会と協力して、「電気電子・情報系 CPD 協議会」を立ち上げ、共同で協議を進め、新しい会員サービス実現のため、Web 版 CPD トライアルの検討を進め、2006 年 11 月から、技術者に対する CPD 会員システムの試行運用を開始して、広く CPD モニター会員の参加者を募集している。

関連資料：<http://www.ieice.org/jpn/cpd/index.html> に掲載。

11.3 他学会との連携について

「電気・情報関連学会連絡協議会」(本会、電気学会、照明学会、映像情報メディア学会、情報処理学会)において各学会が直面している問題(電子出版など)について話し合いを行っている。

日本学術会議との連携を図るため、日本学術会議と電気・情報関連 5 学会との会合を平成 19 年度から実施することを企画した。

11.4 卓越技術データベースの作成について

電気・情報関連 5 学会連携による平成 15 年度科学研究費補助金データベース作成活動を開始した。1980 年代を中心に世界のトップレベルに達した我が国の卓越技術の研究開発の歩みをデジタルアーカイブとして蓄積する。5 年間で 3,000 件(うち、本学会分は 1,200 件)の卓越した日本の技術のデータを収集する。

12. 会員に関する事項(定款 第 3 章)

12.1 名誉員の推薦

池田 博昌(東京情報大)
石川 宏(NTT-AT)
齊藤 忠夫(トヨタ IT 開発センター)
畚野 信義(ATR)
森 健一(東京理科大)

を定款第 7 条イ項により名誉員に推薦した。

12.2 会員の現況

会員増強委員会では、特に除籍会員引止め施策として、(1)除籍者の機関誌送付費用の経費軽減と、会費の安定確保のため、19 年度会費から前納制に移行し、18 年度に実施した。(2)銀行、郵便局の自動引き落としの奨励及びこの制度の定着を図るため、基本会費の 5%割引を実施し、約 1,000 名の追加申請があった。

継続施策として、(1)学生員から正員への昇格者に会費の半額免除等をより明確に周知する等、会員の継続を図った。(2)個人会員の滞納者については、特に本年度は、前納制への切替により、19 年度の会費請求も行うことから、メールでの会費督促回数を増やし、支払勧奨を行うとともに、役員・評議員から、所属の滞納会員に連絡をとった。また、学生員についても各大学の正員、各支部学生会顧問から連絡を行うなど、会費滞納者へのきめ細かい対応を行った。(3)学生員の増強と学生員から正員への定着率の増加として、学生ランチの設置校を募集し、今年度は 12 校で活動が行われた。(4)正員に昇格した学生員に「正員証」を発送した。

(1) 会員数は次のとおりである。

会員種別	名誉員	正員	学生員	准員	特殊員	維持員	合計
平成 17 年度末会員数 ()内はフェロー会員数	81 (14)	28,623 (511)	5,345	190	364	248	34,851 (525)
平成 18 年度末会員数 ()内はフェロー会員数	84 (20)	27,744 (547)	5,290	141	364	234	33,857 (567)
前年度末との差	3 (6)	-879 (36)	-55	-49	0	-14	-994 (42)

(注) 名誉員の、尾佐竹 徇先生は 18 年 7 月 17 日に、尾崎 弘先生は 18 年 11 月 20 日に、喜安善一先生は 18 年 12 月 7 日に逝去された。

(2) 各支部における会員数は次のとおりである。

()内はフェロー会員数

支部/ 会員種別	名誉員	正員	学生員	准員	特殊員	維持員	合計	前年度差
北海道	0	458 (10)	198	0	5	4	665 (10)	-14
東北	8	907 (36)	219	0	16	4	1,154 (36)	-68
東京	57 (10)	16,556 (339)	1,811	1	210	151	18,786 (349)	-785
信越	0	468 (6)	148	0	12	11	639 (6)	11
東海	4 (3)	1,725 (33)	436	0	30	21	2,216 (36)	-43
北陸	0	465 (6)	137	0	7	1	610 (6)	-12
関西	10 (5)	3,543 (70)	790	1	49	32	4,425 (75)	-159
中国	2 (2)	840 (13)	257	0	13	4	1,116 (15)	6
四国	0	406 (5)	209	0	8	2	625 (5)	-52
九州	0	1,174 (23)	438	1	13	4	1,630 (23)	-45
海外在住	3	156 (3)	13	0	1	0	173 (3)	-23
Overseas	0	1,046 (3)	634	138	0	0	1,818 (3)	190
合計	84 (20)	27,744 (547)	5,290	141	364	234	33,857 (567)	-994 (42)

II. ソサイエティ事業

ソサイエティ制開始 12 年目にあたる平成 18 年度は、各ソサイエティにおいても特色のある企画等を実施し、研究調査活動も順調に推移した。また、各ソサイエティの連携を図るためにソサイエティ連絡会を 4 回開催した。

◎ 基礎・境界ソサイエティ

(1) 総論

基礎・境界ソサイエティは、本学会関連の研究分野のうちでも境界領域や基礎領域及び新しい領域での研究活動を支援し、推進するという重要な役割を担っている。本ソサイエティは他ソサイエティと同列に存在しているものの、その理念、使命は特別である。本ソサイエティの運営にあたっては、そ

の存在意義を常に深く意識し、独自の価値を持ったソサイエティ作りを目指した活動を行うべきと考えている。このために、境界領域や新領域など移り変っていくものと基礎領域など不変なものを見極め、それぞれに適した活性化の一層の推進を進めている。

基礎・境界ソサイエティでは、ソサイエティ活性化のための諮問ワーキンググループとしてソサイエティ活性化ワーキンググループを立ち上げて、ソサイエティ活性化の方策を探っている。上記の目標を達成するために、活性化ワーキンググループにおける議論を反映させつつ、活動の基本となる研究専門委員会の研究現場の感性をくみ上げる環境作りを進めている。このような環境の下で、平成19年度のソサイエティの独立採算化(試行)を念頭に置きながら、ソサイエティ活性化基金も有効に利用し、新分野醸成と基礎領域の次世代への発展継承を図っている。

(2) 研究専門委員会活動の活性化

基礎・境界ソサイエティでは、これまでに、既存の研究専門委員会の活動の更なる促進、学術研究集会(国際シンポジウム主催母体)の組織化、第二種・第三種研究会の活動の支援、新しい研究分野の開拓等々に努力してきた。今年度も一層この方向における活性化を進めることを第一の事業とした。活性化ワーキンググループにおける議論を踏まえ、より活発に活動している研究専門委員会等を支援するために、平成17年度より研究専門委員会等へ技報売上に応じて活動費を配分しているが、平成18年度は、活動報告や収支報告により、活動状況、活動費の支出状況の透明性を高めるとともに、その自由度を高めることで、研究専門委員会等の活性化の推進を図った。また、活性化のための評価システムの構築と、それによる研究専門委員会等の再構成に向けた取組みを継続した。

(3) ソサイエティ活動の活性化

基礎・境界ソサイエティの存在を学会の内外にアピールするためには、本ソサイエティの活動にふさわしい各種講演会のより一層の充実が必要である。大会における魅力的な講演会特別企画の立案や、出前講演会と銘打った講師派遣型の講演会など各種の講演会等の企画立案を行った。また、応募形式で獲得できる基礎・境界ソサイエティ活性化事業費の新設とともに、ソサイエティの独立採算化に向けて、ソサイエティ独自の国際会議の支援や新分野の育成のための予算措置を伴った活動がより自由にできるような仕組みの構築を行った。

(4) 論文誌の魅力の向上

論文誌の魅力の向上による若手会員・海外会員の獲得は学会の基本であり、そのためには内容の充実、掲載までの期間の短縮が重要である。掲載までの期間の短縮への取組みを継続するとともに、魅力的な特集号企画を引き続き検討、実施した。また、英文論文誌については、平成14年度より導入している英文クオリティチェックとともに、学会Webページに掲載されている英文論文作成に慣れていない会員へのサポートのための英文論文書き方テキストの宣伝活動により、英文の質的向上を引き続き図った。

(5) 国際化の推進

国際化の促進、特にアジアをターゲットとした活動は重要であり、海外会員への支援のための英文ホームページコンテンツの更なる充実、国際会議へのブース出展、国際会議における英文論文誌CD-ROM無料配布や若手研究者への旅費補助、日本在住の留学生をターゲットとしたホームページの立ち上げや留学生を対象とする企画などにより、外国人に対す

る本ソサイエティの認知度を高めることで、英文論文誌拡販、留学生会員や海外会員の増加を図った。

(6) ソサイエティ内情報管理システムの有効利用

ソサイエティの効率的な運営を目指した情報管理システムの構築に向けた取組みが平成16年度よりスタートし、平成17年度にはシステムの利用が始まったが、平成18年度には、システムの充実とともにその有効利用によるより効率的な情報管理を図った。従来から委員の交代などによる事業の不継続が指摘されてきたが、この情報管理システムを有効利用することでソサイエティ事業の継続性強化が達成され、ひいてはそれがソサイエティ活性化につながるものと期待される。

◎ 通信ソサイエティ

本年度は、ソサイエティ独立採算化の本格実施を行った。ソサイエティの財務状況を監視するために4半期ごとの収支状況報告を実施するとともに、ソサイエティ活動を機動的に行うために研専運営会議や編集会議への権限委譲を行い、会員サービスの充実化並びに財政基盤の強化を図るための新施策の議論を行った。

(1) 財務管理

独立採算化に際しては、ソサイエティ内での責任ある財務管理が必須となる。このため、毎月の収支状況を取りまとめ、4半期ごとに収支報告を実施することにより、常にソサイエティの財務状況を把握できる運用を開始した。

財務状況の把握にあたっては、今年度から開始された論文誌のオンライン化の影響を慎重に見極めながら行った。また、新規活動費を新たに計上し、独立採算化の重要な目的である会員サービスの活性化を促した。

(2) 通信ソサイエティマガジン

通信ソサイエティ会員に対する更なるサービス向上及び通信ソサイエティのプレゼンス向上を目的とした新施策の一つとして、通信ソサイエティマガジンの創刊に向けて和文マガジン編集委員会を設置した。通信ソサイエティマガジンは、和文論文誌、英文論文誌に続く第3の通信ソサイエティの刊行物となる。電子情報通信学会誌より専門性が高い記事を提供することにより、電子情報通信学会誌や商業誌とすみ分けを行う。平成19年度より年4回発刊すべく検討を行ってきた。

(3) コミュニティサービス

会員サービスの活性化施策の一つとして、コミュニティサービスの立ち上げ準備を進めてきた。コミュニティサービスの目的は、会員が持つ技術・技能・ノウハウ・個人的魅力・組織的魅力などを啓発・記録して他の会員に伝えることや、会員相互でコミュニティを形成して仲間作りや連絡などに活用できる会員相互の「集いの場」を提供することである。平成19年度に本サービスを開始すべく、システム開発並びに試験運用を進めてきた。

あわせて、研究室HPリンクサービスなどの新規施策の検討を行った。

(4) 通信ソサイエティホームページ

通信ソサイエティホームページ管理連絡会において、ホームページの拡充を実施した。具体的には、ホームページへのバナー広告掲載の実施準備、ホームページデザインの更新を行った。

(5) サービス評価委員会活動

研究会活動を活性化することを目的とした研究会活動評価委員会を発展的に改組し、会員の声を吸い上げる仕組みを換

討するサービス評価委員会を設置した。本委員会は通信ソサイエティ会員の減少、いわゆる「会員離れ」の原因を分析し、会員が通信ソサイエティに何を期待しているかを把握し、会員にとってより一層魅力ある通信ソサイエティとするための施策立案に必要な情報を提供することを目的とする。具体的には、会員の声を直接吸い上げる方法として、Webによるアンケート調査と分析を平成19年度に実施すべく検討を行ってきた。

(6) 研究専門委員会

研究会活動を活性化することを目的として、各種研究専門委員会と研究会の位置付け、研究専門委員会の設置基準、研究専門委員会の廃止の手続き等について、研専運営会議において議論を続けている。

また、研専運営会議活性化資金を設け、それぞれの研究専門委員会が自由裁量により斬新なアイデアで研究会活性化を図れるようにした。研究会投稿システムの改修、デジタルコンテンツのアーカイブ化、技報のアーカイブ化準備などを実施した。

(7) 通信ソサイエティ論文賞

通信ソサイエティ論文賞を新たに創設した。2005年4月から2006年3月発行の和・英論文誌に掲載された論文の中から、優秀論文賞3編、チュートリアル論文賞2編、Best Paper Award 3編、Best Letter Award 該当なし、Best Tutorial Award 2編を選定し、ソサイエティ大会総会で表彰式を行った。

(8) 国際関連

ドイツVDE/ITG、韓国電磁波学会KEESとのシスターソサイエティ協定を締結し、本協定の下、相互協力形態や会員サービスの具体化を進めた。また、昨年度に引き続き、通ソメンバーリスト、及びIEEE ComSocの双方のメンバーリストを使った会員サービス(CFPや論文誌の目次の配信)、Global News Letterの発行を継続して実施した。

◎ エレクトロニクスソサイエティ

2006(平成18)年度は、エレクトロニクスソサイエティにとって独立採算化の試行年度であった。独立採算化がソサイエティ活動の活発化に大きく貢献するよう、様々な新方式を打ち出してきた。その根幹をなすものが、3会議体制である。すなわち、ソサイエティの決定機関である運営委員会での従来の議論の機動性を増すため、次の三つの会議とそれらを取りまとめる執行委員会を設置し、これによって実効的な議論の促進を図ってきた。ソサイエティの主な活動を、各会議を軸にとり、以下に記す。

1. 企画会議

- (1) 予算：エレス独立採算に伴うエレス会計収支の把握と管理・分析を定常的に行い、その実態を明らかにした。その結果を元に、来年度のエレス全体の独自予算を作成し、その中に学生向けの新賞の設置や技術紹介コンテンツ作りなどの新企画を組み込んだ。
- (2) 顕彰：従来のエレクトロニクスソサイエティ賞に加え、新たにエレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞を企画立案し、2007(平成19)年ソサイエティ大会から実施する。
- (3) 広報：一般にアピールするビデオコンテンツの作成を計画し、2007(平成19)年度に実行する。

2. 編集出版会議

- (1) エレス活性化予算として、掲載料の各種減額・免除、

英文チェック、ELEX宣伝パンフレットの作成などを提案し、実行に移している。

- (2) 論文賞候補論文選定方法の改定を行い、より合理的なものにした。
- (3) ELEX出版の更なる促進：ELEXと英文論文誌の特にレターとの関係について検討し、それらの位置付けを明確にすることによって英文論文誌全般の活性化を目指している。

3. 研究技術会議

- (1) 研究専門委員会：エレスの根幹をなす13の第一種研究専門委員会と15の時限(第二種)研究専門委員会が活発な研究活動を行った。第二種のうち11委員会があったん期間を終え、そのうち10委員会は更に活動を展開するため委員会を継続する。
- (2) 国際会議：主催・共催4件及び技術共催・協賛案件12件を開催した。予算規模が大きなものが多く、学術面・国際交流面のみならず予算的にも非常に活発な活動となっている。
- (3) 2006(平成18)年ソサイエティ大会(金沢大)では一般講演364件に加えて、9セッションのシンポジウム企画、2セッションのソサイエティ特別企画、1セッションのパネル討論を実施した。シンポジウム企画「シリコン・フォトニクス技術の最新動向」では活性化施策として海外からの講師招へい補助金を充てて内容の充実を図り、120名を超える聴衆を集めた。
- (4) 研究会活性化基金を運用して学生を中心としたマイクロ波学生研究発表会(9月、MW研)を実施した。22件の投稿があり、学生向けの特別招待講演も催し、熱心な議論が行われた。

2007(平成19)年度は、独立採算化実施の初年度である。上記新企画を本格的に実行に移す年度である。新方策がどのような活性化効果をもたらすか、あるいはまた新たにどのような問題が発生するのか、見極めながら機敏に対応してゆく。活動が活性化し、会員一人一人が様々な場面で会員である魅力をより多く感じられるように、取り組んでゆきたい。

◎ 情報・システムソサイエティ

情報・システムソサイエティは、他ソサイエティと同様に論文誌の電子ジャーナル化そして積極的な研究会活動を行い、ソサイエティ独立への準備段階に入った。

国士舘大学世田谷キャンパスで開催された総合大会(3月下旬)では、ソサイエティ企画として7件、シンポジウムとして4件及び学生ポスターセッションを企画するなど、ソサイエティ活動の可視化に努めた。また、大会の懇親会(3/25)において情報・システムソサイエティの学術奨励賞(8名)の授賞式が行われた。

ISSのソサイエティ大会と情報処理学会(IPSJ)の秋の全国大会を統合したFIT(情報科学技術フォーラム)は、平成18年9月5日から3日間、福岡大学で開催された。参加者は講演者762名、一般聴講者522名、その他イベント講演者、招待者等の総参加者数1,553名の参加者であった(昨年東京で開催されたFIT2005での参加者は1,822名であった)。FIT運営面において財政収支が赤字となり、地方での参加者拡大の課題を残した。しかし、メイン会場での嶋先生の特別講演(マイクロプロセッサの誕生、9/6)には、会場が満員となる450名の参加者があり、その他多くのパネル討論や各イベント会場も多く参加者であふれ、魅力ある企画が多く見ら

れた。今回は、会場を愛知の中京大学に移して行う予定（平成19年9月5日～7日）である。また、例年通り、船井業績賞、船井ベストペーパー賞、FIT論文賞、FITヤングリサーチ賞を選定・表彰した。

主な活動は以下のとおりである。

(1) 授賞に関する活動

ISSでは、ソサイエティの独立性、活性化を図る施策として、サーベイ論文、先見論文、連作論文を選定対象とするソサイエティ論文賞を設立している。そして、ソサイエティの活動について顕著な功績があった人々を対象に、例えば多数の査読を行った査読委員等の活動功労賞も設定している。これら論文賞8名、功労賞10名を選定し、東京で授賞式を行った（平成18年12月4日）。

(2) 第7回フェロー称号贈呈式及び第8回フェロー候補者推薦

平成18年度フェロー称号贈呈式を上記授賞式と同じ日（12/4）に東京で行い、伊澤会長から10名の方々にフェロー称号を贈呈した。第8回フェローについては、推薦を寄せられた中からISSフェロー推薦委員会において審議を開始した。

(3) 財務基盤の改善検討

ISSソサイエティ運営の独立化を視野に入れてISS財務基盤を強化すべく、論文誌関連の経費削減、総合大会・FITの収支構造、技術研究報告予約価等について検討を行い、平成19年度試行の準備を整えつつある。

◎ ヒューマンコミュニケーショングループ

平成18年度は、ヒューマンコミュニケーション基礎研究会（HCS）、ヒューマン情報処理研究会（HIP）、マルチメディア・仮想環境基礎研究会（MVE）、福祉情報工学研究会（WIT）の四つの第一種研究会、Webインテリジェンスとインタラクティブ研究会（WI2）、脳情報通信研究会（BICT）の二つの第二種研究会、及び、ヴァーバル・ノンヴァーバルコミュニケーション研究会（VNV）、料理メディア研究会（CM）の二つの第三種研究会による体制を確立し、活動してきた。特に、BICTとCMは、今年度新設された研究会である。

前年度に引き続き次の取組みを行った。HCS、HIP、MVE、WITは各々6回の研究会を開催した。特にWITの情報保障マニュアルは、有用性の高い資料として、今後の有効活用について検討を進めている。WI2は、研究会のチュートリアルに170名以上が集まるなど、活発な活動を展開した。設立間もないBICTは、HCGシンポジウムにおいてチュートリアルを企画した。VNVは、ウェブを使った議論のアーカイブに引き続き取り組んできた。設立間もないCMは、1月に第一回のシンポジウムを開催した。

平成18年度ヒューマンコミュニケーション（HC）賞の選定と表彰を行った。本賞は、第一種研究会の発表から、50件に1件を目安に、各研究会で組織したHC賞審査委員会において選考した。本年度はHCGホームページに記載されたように、計7件の発表についてHC賞を授与することにした。

情報・システムソサイエティと情報処理学会が共催する「情報科学技術フォーラム；FIT」には、共催メンバーとして積極的に参加した。また、春の総合大会に合わせて3月23日（金）、24日（土）中京大学名古屋キャンパスでHCGシンポジウムを開催した。シンポジウムは、HCG傘下の第一種4研究会と第二種2研究会及び第三種研究会のVNVが同時開催の形で、75件以上の研究発表及び特別講演や

チュートリアルが行われた。その特別企画として、「脳情報通信とユビキタス社会」と「マルチモダリティから見たコミュニケーション研究の地平」と題したチュートリアル講演を開催した。また、総合大会では、MVEから特別企画「Virtual Organizationの基礎と応用～仮想世界構築技術からミクシイまで～」、WITからパネル討論「放送メディアにおける福祉情報技術の現状と可能性」、HIPからチュートリアル「人間視覚情報処理研究の最前線」の3件を展開し、積極的な関与がなされた。

HCGニューズレターを18年10月と19年4月の2回の発行及び発行準備をした。また英文論文誌（ED）において、「ヒューマンコミュニケーションⅢ」の企画に着手し、2008年6月に発行を予定している。

平成18年度の重点的な取組みとして、(1) HCGの活動が一層見えるようにHCGシンポジウムをはじめとした特別企画への取組みを積極的に行った、(2)他学会や他コミュニティとの横断的な連携をこれまで以上に進め新規分野の開拓を進めた、(3)論文誌での特集企画への取組みを積極的に行った、(4)情報保障への取組みを信学会内での新しい試みとして積極的に進めた、(5) HCGの将来像に関して議論した、などが挙げられる。

1. 大会に関する事項（定款 第6条ロ）

1.1 総合大会

下記の期日・会場において4ソサイエティが合同して開催した。

期日 平成18年3月24日（金）～27日（月）

会場 国士舘大学世田谷キャンパス（東京都世田谷区）

参加者 4,999名

講演件数

大会委員会企画	2 課題	
ソサイエティ特別企画	6 課題	
パネル討論	25 課題	
チュートリアル講演	10 課題	
一般講演		2,463 講演
シンポジウム講演		245 講演
合計	43 課題	2,708 講演

懇親会 同キャンパス内 1号館地階 銀座スエヒロ

参加者 176名

1.2 ソサイエティ大会

下記の期日・会場において基礎・境界、通信、エレクトロニクスの各ソサイエティが合同して開催した。

期日 平成18年9月19日（火）～22日（金）

会場 金沢大学角間キャンパス（金沢市）

参加者 2,909名

懇親会 同キャンパス内 南福利食堂 参加者 450名

(1) 基礎・境界ソサイエティ大会

特別企画	1 課題	
パネル討論	1 課題	
チュートリアル講演	3 課題	
一般講演		230 講演
シンポジウム講演		33 講演
合計	5 課題	263 講演

(2) 通信ソサイエティ大会

特別企画	1 課題	
パネル討論	5 課題	

チュートリアル講演	2 課題	
一般講演		939 講演
シンポジウム講演		105 講演
合計	8 課題	1,044 講演

(3) エレクトロニクスソサイエティ大会

特別企画	1 課題	
パネル討論	1 課題	
チュートリアル講演	0 課題	
一般講演		364 講演
シンポジウム講演		65 講演
合計	2 課題	429 講演

1.3 FIT2006 (第5回情報科学技術フォーラム)

下記の期日・会場において情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ及び情報処理学会が合同で開催した。

期 日 平成 18 年 9 月 5 日 (火) ~ 7 日 (木)

会 場 福岡大学七隈キャンパス (福岡市)

参加者 1,553 名

懇親会 同キャンパス内 文系センター棟 16F スカイラウンジ 参加者 120 名

イベント企画

研究会提案企画 21 課題

委員会提案企画 4 課題

現地提案企画 1 課題

船井ベストペーパー賞選考会 10 講演

情報技術レターズ 120 講演

一般講演 642 講演

2. 国際会議に関する事項 (定款 第6条ロ, チ)

次のとおり開催した。

会 議 名	開催年月日	参加者数	論文数	場 所	
The Second International Special Workshop on Databases for Next-Generation Researchers (SWOD2006)	2006.04.07	40	24	Atlanta, USA	ISS
2006 年アジア太平洋マイクロ波フォトニクス会議 (AP-MWP2006)	2006.04.24 ~ 26	125	87	神戸市: 神戸国際会議場	ES
IEEE the 7th International Conference on Mobile Data Management (MDM06)	2006.05.10 ~ 12	270	39	奈良市: 奈良県新公会堂	ISS
The 21th International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications 2005 (ITC-CSCC 2006)	2006.07.10 ~ 13	584	578	Chiang Mai, Thailand	ESS
2006 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA 2006)	2006.09.11 ~ 14	280	269	Bologna, Italy	ESS
2006 Korea-Japan Joint Conference on AP/EMCJ/EMT (KJJC'06)	2006.09.23 ~ 24	156	110	金沢	CS ES
International Workshop on Security (IWSEC2006)	2006.10.23 ~ 24	114	43	京都	ESS
2006 International Symposium on Antennas and Propagation	2006.11.01 ~ 04	312	318	シンガポール	CS
The Fifteenth Asian Test Symposium (ATS'06)	2006.11.20 ~ 23	155	63	福岡市: ソフトウェア・リサーチ・パーク	ISS
2006 年アジア・パシフィックマイクロ波会議 (APMC 2006)	2006.12.12 ~ 15	1,069	516	パシフィコ横浜	ES
12th Asia and South Pacific Design Automation Conference (ASP-DAC 2007)	2007.1.23 ~ 26	716	171	横浜	ESS

3. 出版に関する事項 (定款 第6条イ)

3.1 和文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別 (A・B・C・D) に 4 種類をそれぞれ次のとおり発行・配布した。

掲載総ページ数は 8,292 ページである。

分類 分冊	論文	レター	その他	計	特集回数 回	発行部数 部
	件数 ページ数	件数 ページ数	— ページ数	件数 ページ数		
A	102	29	—	131	4	14,900
	1,026	128	148	1,302		
B	192	40	—	232	7	15,700
	1,964	178	160	2,302		
C	128	34	—	162	7	14,700
	1,131	111	172	1,414		
D	263	29	—	297	7	16,100
	2,932	149	193	3,274		
計	690	132	—	822	25	61,400
	7,053	566	673	8,292		

*その他: 総目次 64 ページ, 巻頭言 38 ページ, 英文誌紹介 116 ページ, 特集号募集案内等付物 455 ページ

3.2 英文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別 (A・B・C・D) に 4 種類をそれぞれ次のとおり発行・配布した。

掲載総ページ数は 11,854 ページである。

分類 分冊	Paper	Letter	その他	計	特集回数 回	発行部数 部
	件数 ページ数	件数 ページ数	— ページ数	件数 ページ数		
A	364	118	—	482	15	13,000
	3,076	477	191	3,744		
B	248	197	—	445	4	13,200
	2,334	782	170	3,286		
C	298	66	—	364	14	13,200
	1,886	231	199	2,316		
D	344	78	—	422	9	12,700
	2,092	240	176	2,508		
計	1,254	459	—	1,713	42	52,100
	9,388	1,730	736	11,854		

*その他: 総目次 143 ページ, Abstract 177 ページ, Foreword 57 ページ, 特集号募集案内等付物 359 ページ

3.3 電子ジャーナル

エレクトロニクスソサイエティでは, Web を用いたペーパーレス研究速報英文論文誌「IEICE Electronics Express (略称 ELEX)」(月 2 回発行) に 102 件, 631 ページを掲載した。また, 平成 18 年の掲載論文を収録した CD-ROM を販売・宣伝用に 750 枚作成した。

3.4 ニュースレターの発行状況

各ソサイエティ及びグループでは活動の一環としてニュースレター, ソサイエティ誌を論文誌等の付録として下記のとおり発行した。

基礎・境界ソサイエティ	4 回	16 ページ
通信ソサイエティ	4 回	56 ページ
エレクトロニクスソサイエティ	4 回	24 ページ
情報・システムソサイエティ	5 回	100 ページ

3.5 論文誌 CD-ROM の発行

和・英論文誌平成 18 年の年間目次, 分野別索引, 著者索引, キーワード索引を閲覧することができる CD-ROM を下記のとおり発行した。

和文誌 A	100 枚	英文誌 EA	100 枚
B	100 枚	EB	100 枚
C	100 枚	EC	100 枚
D	100 枚	ED	100 枚

3.6 IEICE Transactions Online

平成 18 年 4 月から, 名誉員, 正員, 学生員, 准員を対象として, 機関誌としての論文誌を冊子体からオンライン版へ移行した。特殊員に対しては, 平成 18 年 10 月から試行的にサイトライセンスを導入し, 平成 20 年 3 月までの試行期間中は, 従来の年会費でオンライン版の閲覧を可能とした。

4. 選奨に関する事項 (定款 第 6 条ホ, ヘ)

所定の手続きによって選考が進められ, 次のとおり各受賞者を決定した。

4.1 通信ソサイエティ

(1) 英語セッション奨励賞

論文名	著者名(所属)
Frequency-domain Differential Detection and Equalization of Differentially Encoded DS-CDMA Signals	Le LIU (東北大)
Lightweight Discrete Utilization Jitter Estimation	Wayman TAN (早大)

以上 2 編

(2) ソサイエティ論文賞

論文名	著者名(所属)
【優秀論文賞】 分散データ駆動型アーキテクチャの性能評価とアプリケーション設計	高橋 和秀(NTT ドコモ) 昆 孝志(NTT ドコモ) 秋山 一宜(NTT ドコモ) 神宮司 誠(NTT ドコモ)
自己補対放射素子を用いたマイクロストリップ給電広帯域プリントダイポールアンテナ	飴谷 充隆(北大) 山本 学(北大) 野島 俊雄(北大) 伊藤 精彦(苫小牧高専)
多周波ステップICW レーダによる多目標分離法	稲葉 敬之(三菱電機)
【チュートリアル論文賞】 IP 電話サービスの通話品質評価技術	高橋 玲(NTT) 吉野 秀明(NTT) 北脇 信彦(筑波大)
MIMO 伝搬特性の測定装置・測定方法・解析方法・モデル化	阪口 啓(東工大) 高田 潤一(東工大)
【Best Paper Award】 Series-Fed Beam-Scanning Antenna Employing Multi-Stage Configured Microstrip Antennas with Tunable Reactance Devices	Naoki HONMA (NTT) Tomohiro SEKI (NTT) Kenjiro NISHIKAWA (NTT) Koichi TSUNEKAWA (NTT) Kunio SAWAYA (東北大)
Estimation of Radiated Power of Radio Transmitters Using a Reverberation Chamber	Tsutomu SUGIYAMA (NICT) Takashi SHINOZUKA (NICT) Ken IWASAKI (NICT)
Measuring the Perceived Importance of Speech Segments for Transmission over IP Networks	Yusuke HIWASAKI (NTT) Toru MORINAGA (NTT) Jotaro IKEDO (NTT) Akitoshi KATAOKA (NTT)

【Best Tutorial Paper Award】 Recent Progress in Forward Error Correction for Optical Communication Systems	Takashi MIZUOCHI (三菱電機)
Antennas and Propagation in the Presence of Metamaterials and Other Complex Media : Computational Electromagnetic Advances and Challenges	Richard W. ZIOLKOWSKI (アリゾナ大)

以上 10 編

4.2 エレクトロニクスソサイエティ賞

分野	業績	貢献者(所属)
第 1 分野	高周波領域における材料定数測定法に関する研究	橋本 修(青学大)
第 2 分野	面発光レーザのモード制御技術開拓と並列情報処理装置への展開	小山二三夫(東工大)
第 3 分野	ナノスケールデバイスシミュレータの先駆的研究	三好 旦六(神戸大) 小川 真人(神戸大) 土屋 英昭(神戸大)

以上 3 件

4.3 エレクトロニクスレータ論文賞

論文名	著者名(所属)
SGT 試作のための Si 柱側壁の犠牲酸化	日高 剛(東北大) 網川 裕之(東北大) 中村 広記(東北大) 桜庭 弘(東北大) 舛岡富士雄(東北大)

以上 1 件

4.4 ELEX Best Paper Award

論文名	著者名
Planar lightwave circuit dispersion compensator using a compact arrowhead arrayed-waveguide grating	Takanori Suzuki Kenichi Masuda Hirosi Ishikawa Yukio Abe Seiichi Kasimura Hisato Uetsuka Hiroyuki Tsuda

以上 1 件

4.5 情報・システムソサイエティ論文賞

論文名	著者名
【連作論文】 ソフトウェアシステムの類似度とその計測ツール SMMT	山本哲男 松下 誠 神谷年洋 井上克郎
ソフトウェア保守のための類似コード片検索ツール	泉田聡介 植田泰士 神谷年洋 楠本真二 井上克郎
開発保守支援を目指したコードクローン分析環境	植田泰士 神谷年洋 楠本真二 井上克郎
プログラム変更支援を目的としたコードクローン情報付加ツールの実装と評価	佐々木 亨 肥後芳樹 神谷年洋 楠本真二 井上克郎
コードクローンを対象としたリファクタリング支援環境	肥後芳樹 神谷年洋 楠本真二 井上克郎

以上 1 編

4.6 FITの各賞

(情報・システムサイエティ及びヒューマンコミュニケーショングループと情報処理学会との合同)

(1) 船井業績賞

業 績	貢献者(所属)
世界初のマイクロプロセッサ開発をはじめ、先駆的な研究による現在のマイクロコンピュータ技術の発展への多大な貢献	嶋 正利 (ビジュアルテクノロジー)

以上1件

(2) 船井ベストペーパー賞

論 文 名	受賞者(所属)
DMDを用いた空間分割型可視光通信の基礎検討	北村匡彦(東大) 苗村 健(東大)
MCMC法に基づく3次元環境情報を用いた複数人物追跡	大澤達哉(NTT) ウ 小軍(NTT) 数藤恭子(NTT) 若林佳織(NTT) 安野貴之(NTT)
SMTPセッションの強制切断によるspamメール対策手法	山井成良(岡山大) 漣 一平(日立) 岡山聖彦(岡山大) 河野圭太(岡山大) 中村素典(京大) 丸山 伸(京大) 宮下卓也(津山高専)

以上3編

(3) FIT論文賞

論 文 名	受賞者(所属)
Proposal of Dependable Clock Signal Distribution	三浦幸也(首都大東京)
ダブル配列におけるキャッシュの効率化	矢田 晋(徳島大) 森田和宏(徳島大) 泓田正雄(徳島大) 平石 亘(徳島大) 青江順一(徳島大)
共起確率行列を用いた数式文字認識の誤り訂正法の評価	瀧口祐介(早大) 岡田 稔(早大) 三宅康二(早大)
楽譜記述言語 MusicXML からの楽譜自動点訳	田村直良(横浜国大) 後藤大輔(ヤフー) 後藤敏行(横浜国大)
列車ダイヤ乱れ時における経路選択支援システムとその利用者行動への影響把握	土屋隆司(鉄道総研) 山内香奈(鉄道総研) 杉山陽一(鉄道総研) 藤浪浩平(鉄道総研) 有澤理一郎(JR東日本) 中川剛志(JR東日本)
単一周波数平面スペクトル拡散を利用した時間同期外し耐性を持つ動画電子透かし	山本 奏(NTT) 中村高雄(NTT) 片山 淳(NTT) 安野貴之(NTT)
言語識別技術を応用した英語における母語話者文書・非母語話者文書の判別	青木さやか(九大) 富浦洋一(九大) 行野顕正(九大) 谷川龍司(九大)

以上7編

(4) FITヤングリサーチャー賞

候補者名	所属	講演番号	題 名
田村武幸	京大	A-007	Approximation Algorithms for Optimal RNA Secondary Structures Common to Multiple Sequences

澤井里枝	NHK	D-028	視聴者の好みとニュースの重要度を考慮したダイジェストの作成
麦嶋慎也	横浜国大	D-041	概念共有環境 CONSENT における現実状態と概念的状態の整合支援手法の提案
釜谷聡史	東芝	E-021	節構造の推定に基づく統語森解析の高精度化
岩田具治	NTT	LF-005	契約期間を延ばすためのリコメンデーション法
細井利憲	NEC	I-030	動き領域の見えに基づく物体認識
川嶋宏彰	京大	I-039	マルチメディア信号におけるタイミング構造のモデル化
吉野知伸	KDDI 研	J-012	IP HDTV コーデックにおけるネットワーク QoS 変動に応じた符号化レート更新方式
奥田 誠	NHK	K-061	ロボットカメラ協調撮影システムのための撮影規則自動生成
北村匡彦	東大	LK-010	DMDを用いた空間分割型可視光通信の基礎検討
今井尚樹	KDDI 研	L-007	M2Mリアルタイム通信へのサービスマイグレーション方式の適用
野口康人	筑波大	LL-014	複合現実感を用いた分散会議システムにおけるアバタの表示

以上12編

5. 研究会等に関する事項(定款 第6条ロ, ハ)

5.1 基礎・境界サイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：38回 第一種研究会：104回(うち地方開催57回)

また、第二種研究会、第三種研究会及び学術研究集会を開催した。

第一種研究会活動状況

研 究 会 名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
回路とシステム	金子 峰雄	5(5)	113
情報理論	松嶋 敏泰	5(3)	121
信頼性	福田 収一	8(5)	52
超音波	鎌倉 友男	11(4)	121
応用音響	牧野 昭二	11(6)	116
非線形問題	引原 隆士	8(7)	161
VLSI設計技術	浜村 博史	6(4)	158
情報セキュリティ	森井 昌克	6(1)	178
信号処理	黒田 一朗	8(7)	214
ワイドバンドシステム	小林 岳彦	6(3)	118
コンカレント工学	内平 直志	4(3)	47
思考と言語	亀田 弘之	5(1)	80
技術と社会・倫理	木下 宏揚	5(2)	60
安全性	松岡 猛	6(1)	38
ITS	水井 潔	6(2)	97
スマートインフォメディアシステム	荒川 薫	4(3)	87

注：研究会開催数の()内は地方支部等での開催数

5.2 通信サイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：50回 第一種研究会：122回(うち地方開催87回)

別に、第二種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研 究 会 名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
アンテナ・伝播	安藤 眞	11(7)	186
宇宙・航行エレクトロニクス	鈴木 良昭	10(4)	153
衛星通信	田中 正人	6(5)	66

環境電磁工学	古賀 隆治	10 (6)	133
ネットワークシステム	三宅 功	10 (9)	247
情報ネットワーク	斎藤 洋	10 (8)	270
通信方式	若杉耕一郎	7 (7)	129
電子通信エネルギー技術	長尾 道彦	6 (1)	69
光通信システム	桑原 秀夫	7 (5)	89
無線通信システム	山尾 泰	9 (7)	286
コミュニケーションオリティ	阿部 威郎	5 (5)	93
フォトニックネットワーク	山中 直明	6 (5)	104
光ファイバ応用技術	立田 光廣	6 (4)	77
テレコミュニケーションマネジメント	栗山 博	5 (5)	79
モバイルマルチメディア通信	亀山 渉	6 (5)	86
インターネットアーキテクチャ	岡部 寿男	4 (2)	46
ソフトウェア無線	原田 博司	4 (2)	100

5.3 エレクトロニクスソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：25回 第一種研究会：118回（うち地方開催63回）

また、第二種研究会及び第三種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
機構デバイス	曾根 秀昭	11 (2)	90
磁気記録・情報ストレージ	本多 直樹	8 (5)	82
超伝導エレクトロニクス	吉田 啓二	4 (1)	38
電子ディスプレイ	飯村 靖文	7 (1)	98
電子デバイス	和保 孝夫	12 (10)	267
電子部品・材料	石井 清	10 (5)	163
電磁界理論	山崎 恒樹	4 (3)	143
シリコン材料・デバイス	浅野 純正	13 (9)	261
マイクロ波	荒木 純道	10 (5)	201
集積回路	中屋 雅夫	9 (7)	249
有機エレクトロニクス	小野田光宣	13 (6)	167
光エレクトロニクス	西村 正幸	10 (4)	173
レーザ・量子エレクトロニクス	栖原 敏明	7 (5)	152

5.4 情報・システムソサイエティ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：37回 第一種研究会：116回（うち地方開催79回）

また、第二種研究会及び第三種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
MEとバイオサイバネティクス	井出 英人	9 (8)	149
オフィスインフォメーションシステム	茨木 久	6 (3)	75
画像工学	相澤 清晴	10 (7)	292
言語理解とコミュニケーション	中岩 浩巳	4 (3)	97
コンピュータシステム	馬場 敬信	7 (4)	96
コンピュータビジョン	渡辺 治	7 (5)	63
人工知能と知識処理	岩沼 宏治	5 (2)	78
ソフトウェアサイエンス	坂部 俊樹	6 (6)	85
データ工学	佐藤 哲司	3 (2)	131
パターン認識・メディア理解	村瀬 洋	9 (6)	282
ディメンダブルコンピューティング	岩崎 一彦	7 (4)	110
ニューロコンピューティング	麻生 英樹	8 (6)	215
知能ソフトウェア工学	山口 高平	5 (3)	86
音声	田中 和世	9 (7)	180
教育工学	永岡 慶三	9 (7)	142
医用画像	仁木 登	5 (3)	208
ソフトウェアインタプリズモデリング	新川 芳行	3 (0)	17
リコンフィギャラブルシステム	末吉 敏則	4 (3)	76

5.5 ヒューマンコミュニケーショングループ

研究専門委員会及び研究会を次のとおり開催した。

研究専門委員会：9回 第一種研究会：24回（うち地方開催17回）

また、第二種研究会及び第三種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
ヒューマンコミュニケーション基礎	大坊 郁夫	6 (4)	65
ヒューマン情報処理	加藤 博一	6 (5)	138
マルチメディア・仮想環境基礎	全 炳東	6 (4)	86
福祉情報工学	長嶋 祐二	6 (4)	133

6. データベースに関する事項（定款 第6条チ）

国立情報学研究所（NII）並びに、科学技術振興機構（JST）のデータベース作成に次のとおり協力した。

電子図書館（NII）：発行から2年遅れで全文公開

和・英論文誌，技術研究報告，総合大会発表論文，ソサイエティ大会発表論文

J-STAGE（JST）：抄録のみ公開

和・英論文誌，技術研究報告，総合大会発表論文，ソサイエティ大会発表論文

7. 会員に関する事項（定款 第3章）

各ソサイエティ及びグループにおける会員数は次のとおりである。

	ESS	CS	ES	ISS	HCG	合計
平成17年度末登録数 ()はフェロー会員数	7,119 (100)	13,201 (144)	8,099 (122)	11,617 (159)	954	40,990 (525)
平成18年度末登録数 ()内はフェロー会員数	6,779 (109)	12,645 (158)	7,601 (135)	11,399 (165)	959	39,383 (567)
前年度との差	-340 (9)	-556 (14)	-498 (13)	-218 (6)	5	-1,607 (42)

(注) ESS：基礎・境界ソサイエティ，CS：通信ソサイエティ，ES：エレクトロニクスソサイエティ，ISS：情報・システムソサイエティ
HCG：ヒューマンコミュニケーショングループ

Ⅲ. 支部事業

各支部において、講演会、講習会、見学会、大会等を次のとおり開催した。

1. 北海道支部

講演会	8回	学生会講演会	4回
支部連合大会	1回	学生会見学会	1回
研究会	43回		

2. 東北支部

学術講演会	15回	先端技術シンポジウム	1回
学術公開講演会	1回	見学会	1回
特別講演会	5回	支部連合大会	1回
地区講演会	3回	研究会	35回
専門講習会	1回	学生向け事業	2回

3. 東京支部

講演会	4回	研究会	181回
シンポジウム	5回	学生会講演会	2回
地域イベント	3回	学生会見学会	2回
見学会	4回	学生会研究発表会	1回
教育活動	8回	学生会報の発行	1回

4. 信越支部			
講演会	11回	研究会	8回
見学会	2回	支部大会	1回
専門講習会	1回		
5. 東海支部			
講演会	5回	研究会	43回
専門講習会	1回	学生会講演会	7回
見学会	1回	学生会見学会	4回
支部連合大会	1回		
6. 北陸支部			
特別講演会	2回	研究会	15回
講演会	6回	学生会講演会	9回
支部連合大会	2回	学生研究発表会	1回
7. 関西支部			
講演会	2回	研究会	52回
中高生向け講演会	2回	情報通信技術講座	5回
専門講習会	3回	学生見学会	1回
見学会	1回	学生会研究発表会	1回
支部連合大会	1回		
8. 中国支部			
講演会	16回	支部連合大会	1回
専門講習会	2回	研究会	16回
見学会	1回	学生向け講演会・見学会	4回
9. 四国支部			
講演会	17回	学生会講演会	3回
専門講習会	1回	学生会展示会	2回
支部連合大会	1回	学生会見学会	2回
研究会	19回		
10. 九州支部			
特別講演会	1回	支部連合大会	1回
講演会	11回	研究会	57回
専門講習会	1回	学生会講演会	1回
普及啓発活動	1回	学生会見学会	2回
JABEE講習会	1回		

役員、評議員及び代議員の改選結果報告

平成19年度の役員、評議員、代議員の改選は所定の手続きによって行われた。平成19年2月9日に正員に投票を依頼し、3月1日に締め切り、その開票結果を理事会に諮り当選者を決定した。この結果、理事伊澤達夫、青山友紀、赤岩芳彦、中嶋正之、並木淳治、篠原弘道、土井美和子、桑原秀夫、坂庭好一、井上友二、保立和夫、木戸出正継及び監事今井和雄は退任することになり、新たに宮原秀夫、津田俊隆、伊藤弘昌、坂庭好一、高橋達郎、山本浩治、西原明法、花澤隆、小林欣吾、間瀬憲一、河内正夫、畑岡信夫が理事に、平田康夫が監事に就任することになった。

また、役員・評議員は選出代議員となる。

なお、本日の通常総会において退任、留任、新任される役員・評議員・代議員は次のとおりである。

役職名	退任	留任	新任
会長	伊澤 達夫		富永 英義
次期会長	富永 英義		宮原 秀夫
副会長(在京)	青山 友紀	安田 浩	津田 俊隆
副会長(地方)	赤岩 芳彦	雨宮 真人	伊藤 弘昌
総務理事	中嶋 正之	萩本 和男	坂庭 好一
会計理事	並木 淳治	江村 克己	高橋 達郎
編集理事	篠原 弘道	森川 博之	山本 浩治
企画理事	得井 慶昌	尾上 誠藏	西原 明法
調査理事	桑原 秀夫	喜多 泰代	花澤 隆
編集長(理事)		篠田 庄司	
企画室長(理事)		古井 貞熙	
規格調査委員長(理事)		尾羽 光俊	
		(会長)	(次期会長)
ESS会長(理事)	坂庭 好一	大石 進一	小林 欣吾
CS会長(理事)	井上 友二	吉田 進	間瀬 憲一
ES会長(理事)	保立 和夫	安藤 真	河内 正夫
ISS会長(理事)	木戸出正継	末永 康仁	畑岡 信夫
監事	今井 和雄	後藤 敏	平田 康夫
評議員(在京)	市川 晴久	伊東 晋	尾上 誠藏
〃	小館香椎子	太田 直久	桑原 秀夫
〃	津田 俊隆	岡田 忠信	阪田 史郎
〃	中嶋 信生	酒井 善則	土井美和子
〃	三木 俊雄	村上 篤道	三宅 功
評議員(地方)	板倉 文忠	安達 文幸	生越 重章
〃	尾家 祐二	村上 孝三	木戸出正継
〃		(石井光雄)	
〃	小柴 正則	島村 和典	小柴 正則
〃	野田 進	中野 博隆	白鳥 則郎
〃		(森広芳照)	
〃	森永 規彦	横矢 直和	安浦 寛人
評議員(会長指名)	荒川 薫	秋葉 重幸	荒川 薫
〃	田中 良明	石塚 勝	小館香椎子
〃	(大石進一)		
〃	鎌倉 勝利	谷岡 健吉	古池 進
〃		(榎並和雅)	
〃	趙 晋輝	大柴小枝子	菅原 一孔
〃	富田 義数	計 宇生	趙 晋輝
〃	西澤 台次	小林 岳彦	富田 義数
〃	林 秀樹	関根 好文	西澤 台次
〃	柳川 久治	田辺 史朗	林 秀樹
〃		(畑岡信夫)	
〃	山内 良三	古田 洋介	福沢 恵司
〃	李 可人	村田 正幸	李 可人
評議員	北海道支部長		野矢 厚
〃	東北支部長		羽深 龍二
〃	東京支部長		喜連川 優
〃	信越支部長		島田 正治
〃	東海支部長		伊藤 卓志
〃	北陸支部長		松本 忠
〃	関西支部長		山下 勝己
〃	中国支部長		藤岡 清人
〃	四国支部長		樋口 弘志
〃	九州支部長		相川 正義
			(高江洲文雄)

評議員 (学生会顧問)			
〃 北海道支部	鏡 愼		佐野 栄一
〃 東北支部	伊藤 憲三		杉浦 義人
〃 東京支部	関屋 大雄		黒川 弘章
〃 信越支部	萩原 春生		半田 志郎
〃 東海支部	高木 直史		井 研治
〃 北陸支部	葛原 正明		椎名 徹
〃 関西支部	秋山 正博		梶川 嘉延
〃 中国支部	片桐 英樹 (岡村寛之)		椋木 雅之
〃 四国支部	小野 和雄		岩下 克
〃 九州支部	中川 豊		田中 哲郎

備考：() 内は年度の途中において交代した前任者を示す。

役 職 名	退 任	留 任	新 任
互選代議員	相澤 清晴	石原 康利	浅野 敏郎
〃	井上 真杉	泉田 喜一郎	荒川 賢一
〃	伊藤 建一	市毛 弘一	伊藤 哲郎
〃	伊藤 哲郎	井 研治	宇野 健
〃	上村 弘之	今井 一雅	大崎 淳
〃	榎生 逸雄	宇佐見正士	楫 勇一
〃	江村 克己	上林 真司	加藤 浩介
〃	小原 仁	上原 秀幸	河田 淳治
〃	加藤 景三	小野寺秀俊	久保田周治
〃	川副 和宏	大久保賢祐	栗山 繁
〃	久我 守弘	大濱 靖匡	近藤 和弘
〃	久野 義徳	大森 浩史	佐藤 健一
〃	葛原 正明	岡本 好弘	佐藤 茂雄
〃	河野 隆二	加藤 暢	佐藤 誠

〃	佐々木 守	片山 統裕	重田 和弘
〃	佐藤 純	金子 峰雄	白井 宏
〃	笹岡 秀一	菊間 信良	白木 善尚
〃	潮崎 浩則	北村 義弘	高橋 広基
〃	白井 宏	行場 次朗	高橋 琢二
〃	曾我 哲夫	金 亨	竹部 秀洋
〃	田井 秀一	熊耳 浩	田中 賢
〃	田中 稔	渋谷 徹	常田 明夫
〃	高木 直史	鈴木三知男	出口 博之
〃	高橋 広基	田中 二郎	中川 健治
〃	橘 俊郎	竹下 哲義	中川 真也
〃	新田 恒雄	辻岡 哲夫	中島 康雄
〃	西尾 芳文	土橋 宜典	中城 智之
〃	沼田 哲宏	中島 康治	仲村 泰明
〃	荻戸 立夫	中村 隆	西 仁司
〃	原田 耕一	長尾 智晴	野口 一博
〃	藤野 義之	波平 宜敬	福村 直博
〃	真鍋 克也	橋場 寛之	藤田 輝雄
〃	牧野 正三	林田 行雄	前田 賢一
〃	松嶋 敏泰	廣瀬 明	松居 真一
〃	宮原 弘成	藤井 俊彰	松山 光司
〃	宮原 末治	藤岡 清人	三島 璞人
〃	森川 功治	牧野 哲也	宮尾 淳一
〃	森塚 宏平	水本 和樹	宮野 信治
〃	矢野 健剛	村上 秀男	宮原 未治
〃	吉田 宏	湯川 高志	村島 定行
〃	渡辺 一央	吉澤 聡	安井 寛治
〃			矢野 健剛
〃			山口 雅史
〃			渡邊 敏明